

経営改善計画書(令和2年度～令和4年度)

団体名	社会福祉法人 鳥取福祉会
-----	--------------

様式2

現状と課題	生産年齢人口の減少が加速する中で、保育士・介護士不足が更に顕著となり超少子高齢化社会に突入するなどの問題が深刻化、社会福祉法人の役割・使命は益々重要になると予想されます。その求められる責務の実現に向けて積極的に正しく行動して参ります。その取り組みが地域の皆様から信頼されることに繋がるものと確信しています。
経営方針 (令和4年度目標)	全てのステークホルダー(地域の方々)から信頼される法人を目指します。

視点	4年度目標 (期間内の 最終目標)	年度	実行計画		実績		分析、評価コメント (経営改善効果)	市担当課コメント
			取組内容	目標値	取組状況	実績値		
経営 改革 <small>(財務面での長期見直し)</small>	経営 基盤 の 安定 と 健全 経営	2 年度	社会福祉事業(保育、介護、障がい等)の稼働率を向上させることが	1%以上	むつみ保育園の新園舎完成による保育環境の改善。	0.5%	目標未達となったが、コロナ禍にあっても職員の努力により	多様な福祉サービスを提供し、本市の社会福祉、児童福祉において大きな役割を果たしていただいている。また、多様化するニーズに沿った事業展開を行っていただいております。市民サービス向上の効果も大きい。新型コロナウイルス感染症の影響下でも、堅実な経営、事業運営を実施されており、引き続き健全経営に努めていただきたい。
			地域ニーズに応えることに繋がり、安定した健全経営を継続するため		鳥取東包括支援センターを新たに事業開始。		適切なサービスの提供と健全経営を推進できた。	
		3 年度	にも、「サービス活動増減差額率1%以上」を目標値とする。		利用者から選ばれるサービスの向上と人材育成。			
			サービス活動増減差額の確保	1%以上	わかば台保育園を幼保連携型認定こども園に事業変更。	1.1%	地域ニーズに応えるため新たな事業開始・変更など再編に	
4 年度			3ヶ所(東・桜ヶ丘・南)の居宅介護支援センターを統合。		取り組み、各事業が稼働率を向上させることで目標達成す			
	サービス活動増減差額の確保	1%以上	鳥取桜ヶ丘・鳥取南地域包括支援センター事業開始。		ることができた。			
3 年度			鳥取桜ヶ丘・鳥取南地域包括支援センター事業開始。		物価高騰(特に光熱費)により経費増大したことにより経営環境	0.8%	は厳しくなったものなんとか黒字で終えることができた。	
	サービス活動増減差額の確保	1%以上	前年度に引き続きコロナ対策と物価高騰に対応する。					
4 年度			保育士及び介護職員への処遇改善を実施。					
組織 改革 <small>(組織見直し、人材育成)</small>	魅力 ある 職場 づくり	2 年度	働きやすい職場づくりの推進	職員アンケート 働きやすい職場80%以上	女性活躍推進を評価「えるぼし(3つ星)」認定を労働局より交付。	82.7%	「働きやすい職場の職員評価80%以上」の目標達成。	「働きやすい職場づくり」の推進を重点施策として位置付け、法人として処遇改善等の体制強化も図っている。設定された目標値を達成している。また、ICT設備を導入し、通信環境整備を行うことで遠隔での面会や会議、研修を実施されており、職員の事務負担軽減と業務の効率化を図っている。
					リフレッシュ休暇(3日以上)の連続休暇を99.6%の職員が取得。		働きやすい職場づくりを法人の重点施策として今後も	
		3 年度	介護職の諸手当の見直しによる処遇改善実施。		推進していく。			
			人財確保の推進	正職比率85%以上	保育士、介護職を中心に全職員(非常勤職員含む)の給料改善。	85.5%	「正職比率85%以上」の目標達成。	
4 年度			外国人留学生受け入れ準備。					
	ブランド化に向けた効果的な情報発信	「えるぼし」「くるみん」認定取得	「えるぼし」申請	R3.3.31取得	リフレッシュ休暇の取得率90%以上により取得。			
3 年度			「くるみん」取得に向け時間外勤務時間の削減に努める。		取得できず	取得までに最低5年間の取組期間が必要であるため、現在は		
						時間外勤務の5%削減に向けて業務改革を実施している。		
公益 増進 <small>(顧客サービスの向上、社会貢献)</small>	地域 域 に お け る 公 益 性 の 取 組 み	2 年度	利用者から選ばれる特色あるサービスの充実	施設の役割に応じた 支援の充実	社会福祉法人が取り組みべき公益を目的とした地域包括支援センター	事業別にほぼ予算とおりの	コロナ禍にあり、地域における公益的な取り組みにおい	新型コロナウイルス感染症の影響下においても、地域のニーズをしっかりと受け止めて、新たな事業の開始や地域貢献事業を実施されており、地域住民の保健医療の向上と福祉の増進を包括的に支援していただいている。引き続き、運営団体、支援団体、行政と協力、連携しながら公益的な事業の推進に努めていただきたい。
					を1か所開設。次年度は更に2か所開設予定。	実績を残すことができた	ては中止または事業を縮小したが、本来の社会福祉事業	
		3 年度	特色ある保育を念頭に法人独自の知育基盤の創設と実施。		科学的介護情報システム「ライフ」導入のための環境整備。		においては稼働率の確保と良質なサービス提供を実施した。	
			システム導入と業務の見直しによる効率化	システム化の推進と 業務の効率化	科学的介護情報システム「ライフ」導入のための環境整備。		ノートパソコン、タブレット	
4 年度			増設により環境を充実			用瀬町の休耕田をひまわり畑(15,000本)にし一公開、		
	公益的取り組みの推進	地域食堂・えんくるり事業の発展	関係団体と連携強化しサービスの拡充を図る。		連携強化	地域活性化とコロナ禍での閉塞感開放を目的に地域貢献。		
3 年度			ワラカドウォーク300名以上		活動実績なし	地域食堂への参加企業・団体が増加、理解が広がる。		
						コロナ禍のため活動せず来期に備える。		